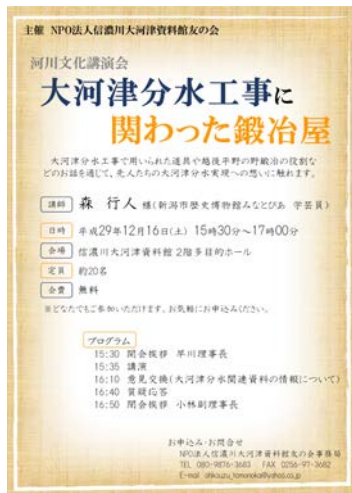


1. イベント概要

期 日：平成29年12月16日（土）15:30～17:00
 会 場：信濃川大河津資料館2階多目的ホール
 内 容：大河津分水工事の従事者や使われた道具について専門家がお話しされました。
 講 師：新潟市歴史博物館みなとびあ 学芸員 森 行人 さん
 主催者：信濃川大河津資料館友の会 参加者数：30人



大勢の方が訪れた会場。大河津分水工事で使われたツルハシ等の実物資料も展示。

2. イベント状況

大河津分水通水100年を迎えるにあたり、当時の大河津分水工事で用いられた道具や工事に関わった先人の手記などを紹介する講演会が開かれました。大河津分水工事で職工として地域住民の方々に関わっていたことを示す資料などの紹介もあり、先人たちの大河津分水への尽力を知る機会となりました。



民俗学を研究されている講師の森さん。大河津分水工事で使われた鍛冶道具や先人の創意工夫についてお話しされました。



大河津分水工事で実際に修理等に使われたと考えられている「当てビシ」。金属を加工する際に槌(ツチ)とともに使用しました。



機械工場の費用内訳は、制作に対して修理の割合が大きく、それだけ難工事であったことが想定されるとのことでした。

参加者の声

鍛冶屋という普段触れることのない話題で新鮮味がありました。大河津の機械工場で、実際に、どううふうに操業されていたかを知ることができ、先人の息づかいに触れられた気がしました。専門的に研究しないと知り得ない話題を今後も学んでいきたいです。



最後に、実際に使われていたツルハシやホソなどの実物資料を皆さんで観覧し、「うちにもまだある」などの話で盛り上がりました。